

計量（物の量をはかること）に関するアンケート」
結果報告書（概略版）

目次

調査目的等	3
調査結果の要約	4
計量法及び検定制度の認知度	5
計量への信頼度【公益メーター全体】	6
計量への信頼度【公益メーター毎】	7
検定コストの妥当性、検定費用への考え方	8
検定コストの妥当性、検定費用への考え方	9
公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象	10
公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象	11
公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象	12
公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象	13
国、自治体及び第三者機関による検定の重要性	14
国、自治体及び第三者機関による検定の重要性	15
適正計量の必要性の認知度	16
アンケート回答後に感じたこと、疑問点	17

調査目的等

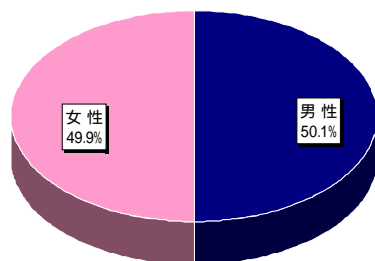
調査目的 適正計量の必要性、計量法及び検定制度の認知度、計量への信頼度、国及び第三者機関による検定の重要性などについて把握し、今後の検定・検査業務における基礎資料とする。

調査方法 インターネットリサーチ(Webアンケート)

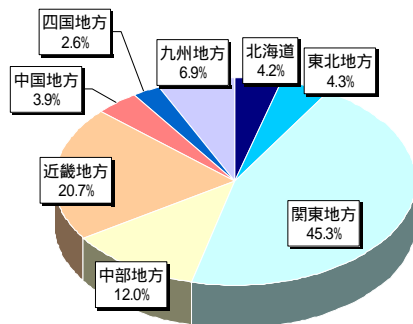
調査期間 2005年8月

回答者 一般消費者(20代から60代までの男女) 1,041名

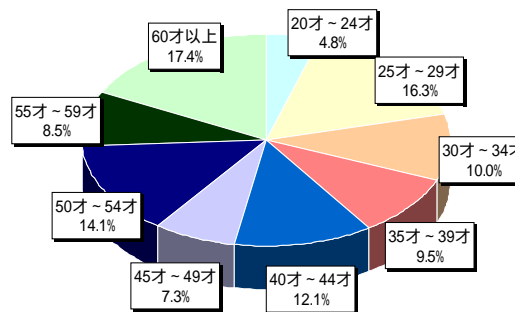
性別



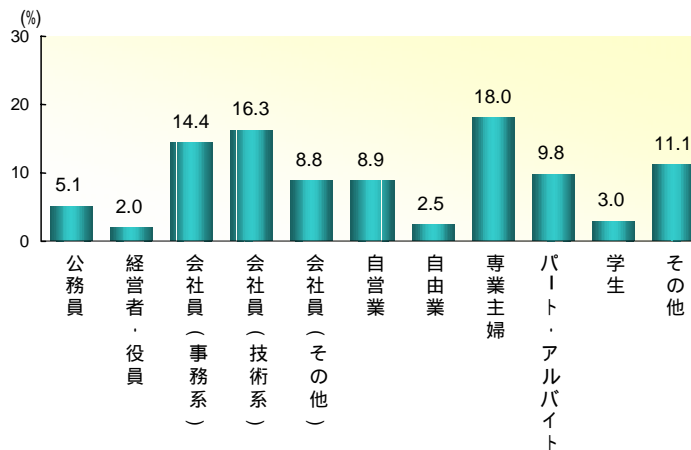
居住地域



年齢



職業



調査結果の要約

計量法及び検定制度の認知度

計量への特段の意識がある者が4割強、意識が「ない」の方がやや多い。
「計量法」、「検定制度」の認知は、共に3割前後。

計量への信頼度

公益メーターに対しては、「正しいと思う」と「正しいと思うが疑問を感じたことがある」で意見が2分。
メーターが正しいと思う理由のトップは、「電力会社、ガス会社等の供給者を信頼しているから」。

検定コストの妥当性、検定費用への考え方

検定コストについては、「妥当と思う」が約6割で圧倒的に多い。
費用と信頼性の関係は、【現状維持派】が半数、【コスト重視】よりも【正確性・信頼性アップ】が上回る。

公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象

検定公差に対しては、「厳しくすべき」(54%)が「妥当である」(44%)を上回る。
検定有効期間については、「必要だと思う」が96%で圧倒的に多い。
再使用については、「積極的に行うべき」が6割で、「新品を使用すべき」(25%)を上回る。
修理品の検定については、【第三者の検定】が7割で、【修理事業者自ら検査】は3割にとどまる。

国、自治体及び第三者機関による検定の重要性

公益メーターの正確さを保つための施策としては、【供給者以外の検定試験】が約6割。
適切な検定機関・団体のトップは、「公的機関(日電検、産総研等)」(50%)。
メーターに疑義が生じた場合の対応等を行う第三者機関は、「(どちらかといえば)必要である」が9割。

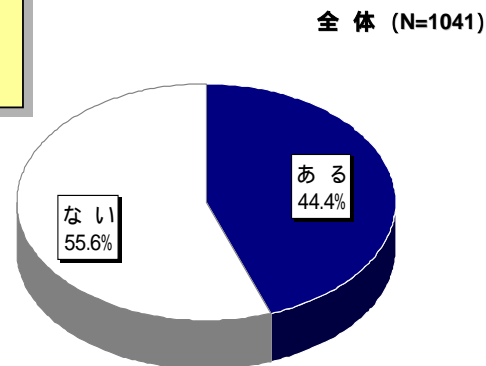
適正計量の必要性の認知度

「正しい計量」について「重要である」が7割、「どちらかといえば重要である」を合わせると97%となる。
正しい計量を裏付けるための、「検定制度」の必要性をほぼ全員(97%)が示している。

計量法及び検定制度の認知度

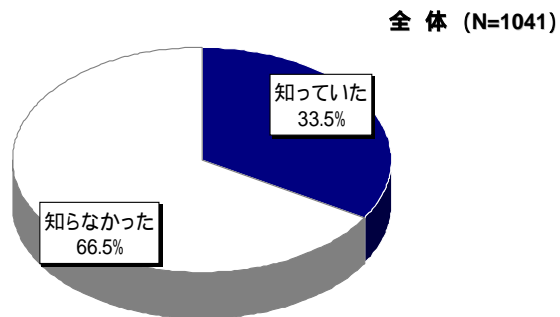
Q あなたの身の回りでは、様々な計量(物の量をはかること)がなされ、また様々な計量器が使用されていますが、これらについて、特段意識したこと(している)はありますか？

物の量をはかること、計量器の使用に対する意識が「ある」(44%)と意識が「ない」(56%)でほぼ2分され、意識が「ない」の方がやや多くなっている。

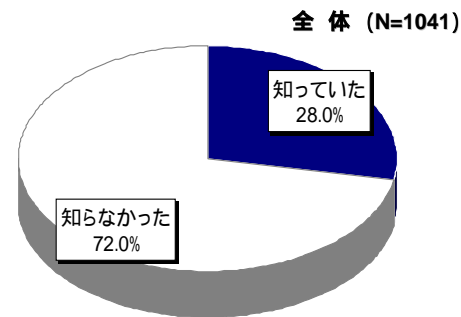


「計量法」、「検定制度」共に認知者はそれぞれ約3割前後にとどまる。「計量法」、「検定制度」などの法律、制度の非認知者が大半を占める。

Q あなたは、「計量法」という法律があることを知っていましたか？



Q あなたは、「検定制度」について知っていましたか？



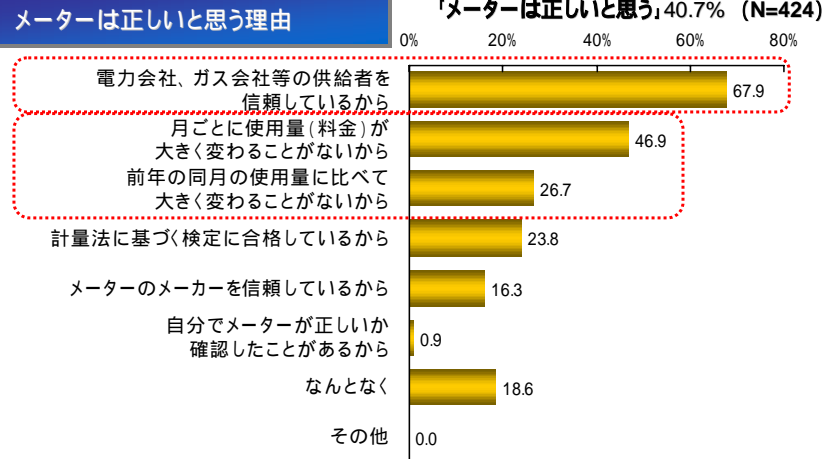
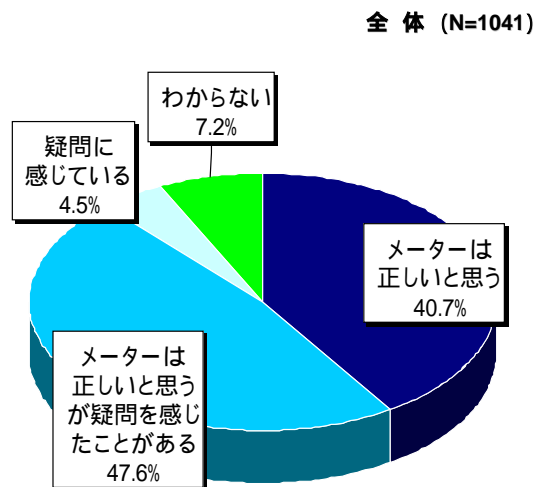
計量への信頼度 【公益メーター全体】

公益メーターに対して「メーターは正しいと思うが疑問を感じたことがある」(48%)と回答した者が約半数で、「メーターは正しいと思う」(41%)を上回る。

メーターは正しいと思う理由として、「電力会社、ガス会社等の供給者を信頼しているから」(68%)が最も多い。次いで、「月に使用量(料金)が大きく変わることがないから」(47%)、「前年の同月の使用量に比べて大きく変わることがないから」(27%)などがあがる。

Q あなたは、ご家庭に取り付けられている公益メーター(電気・ガス・水道メーター)について、メーターが正しく計量していると思いますか？

Q あなたが、「メーターは正しいと思う」とお答えになった理由は、何ですか？ 該当するものをすべて選んでください。

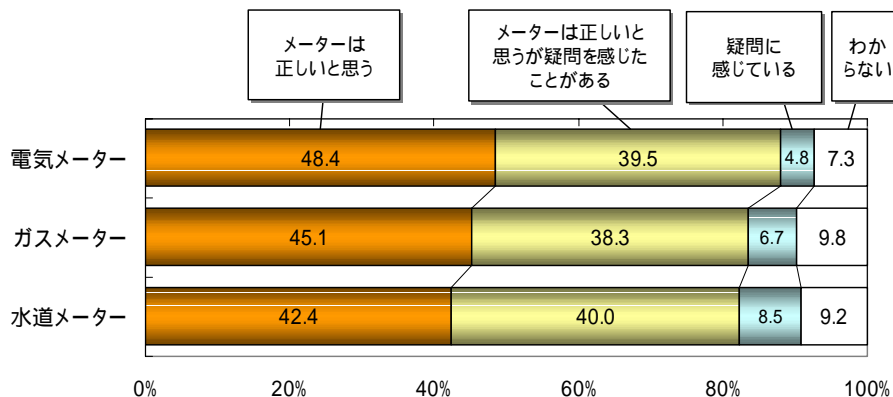


計量への信頼度 【公益メーター毎】

Q 以下にあげる、ご家庭に取り付けられている公益メーター（電気・ガス・水道メーター）について、それらのメーターが正しく計量していると思いますか？

【電気メーター】、【ガスメーター】、【水道メーター】は、ほぼ同様の傾向を示しており、「メーターは正しいと思う」が「メーターは正しいと思うが疑問を感じたことがある」を僅差でそれぞれ上回る。

全体 (N=1041)

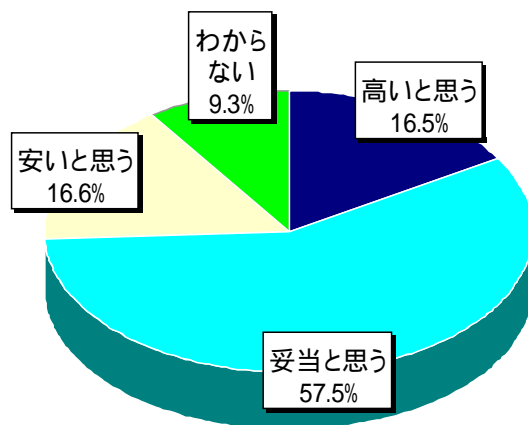


検定コストの妥当性、検定費用への考え方

- Q 一般家庭で使われる電気メーターの場合、検定にかかる費用を1か月当りに換算すると3～4円程度()です。平均的な1世帯当たりの1か月の電気料金は約8千円とされていますが、この検定にかかるコストをどう思いますか？
(法定手数料より換算)

検定コストについて「妥当と思う」(58%)が過半数で圧倒的に多い。以下、「高いと思う」(17%)と「安いと思う」(17%)がほぼ同率で、意見が分かれる。

全体 (N=1041)

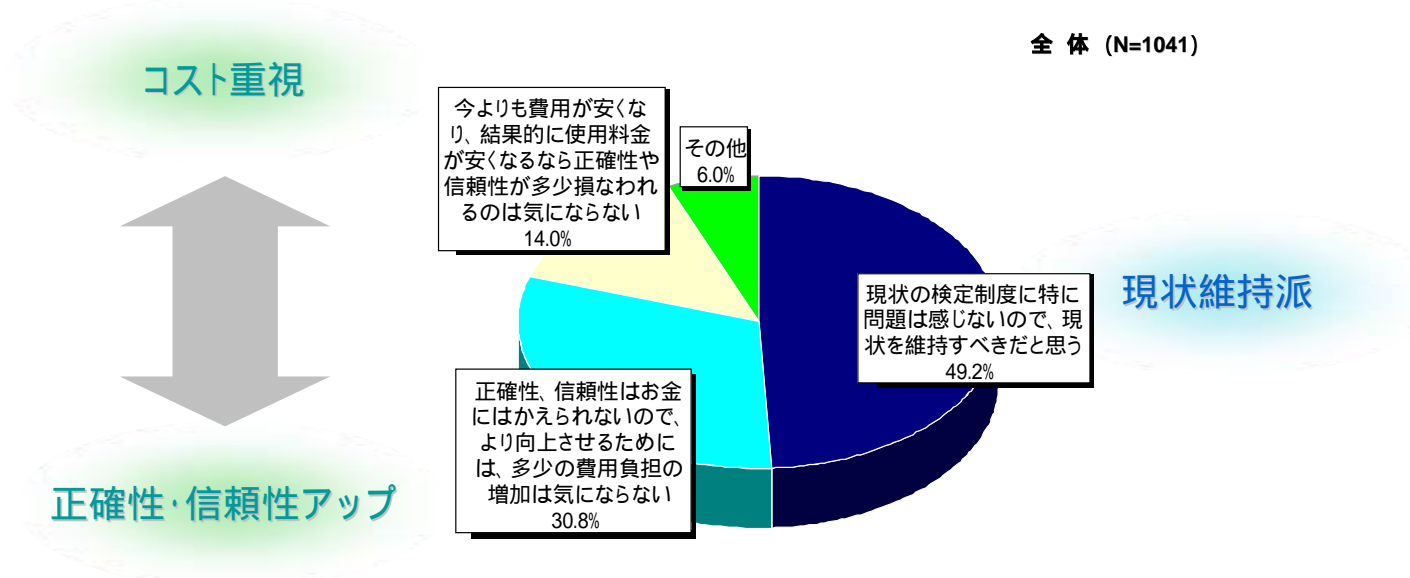


検定コストの妥当性、検定費用への考え方

Q あなたは、計量に関する信頼や安心と、それを担保するための検定等にかかる費用との関係についてどう思いますか？あなたの考えに最も近いものを選んでください。

計量に関する信頼と安心、検定との費用への考え方として、「現状の検定制度に特に問題は感じないので、現状を維持すべきだと思う」(49%)で半数近くを占める【現状維持派】となっている。

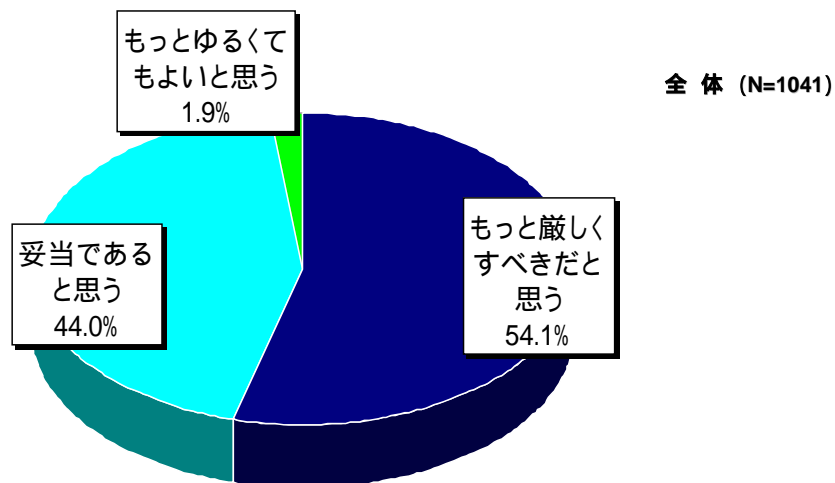
一方、【正確性・信頼性アップ】の「正確性、信頼性はお金にはかえられないので、より向上させるためには、多少の費用負担の増加は気にならない」(31%)が【コスト重視】の「今よりも費用が安くなり、結果的に使用料金が安くなるなら正確性や信頼性が多少損なわれるのは気にならない」(14%)を上回っている。



公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象

Q 一般的な公益メーター(電気・ガス・水道メーター)の検定公差は $\pm 1.5\% \sim \pm 2.0\%$ (平均的な1世帯当たりの1ヶ月の電気料金8千円で換算すると120円から160円の変動)です。あなたは、この誤差の値についてどう思いますか？

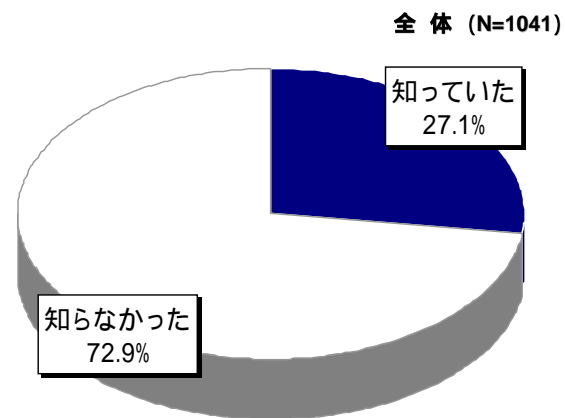
公益メーターの誤差の許容範囲に対する印象としては、「もっと厳しくすべきだと思う」(54%)が「妥当であると思う」(44%)を上回る。



公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象

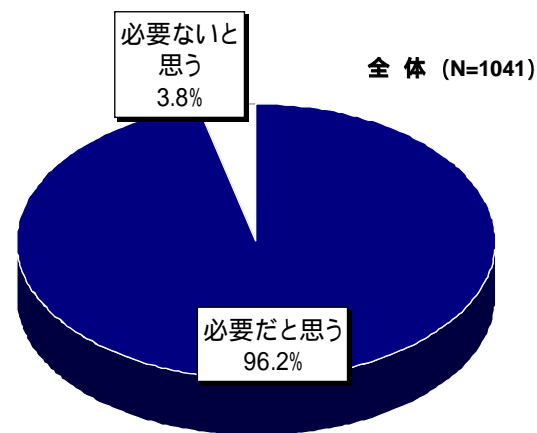
Q あなたは、公益メーター(電気・ガス・水道メーター)やガソリンスタンドで使用されている給油メーターなどに、検定の有効期間があることを知っていましたか？

公益メーターやガソリンスタンドで使用されている給油メーターなどの検定有効期間を「知っていた」は約3割にとどまる。



Q あなたは、公益メーター(電気・ガス・水道メーター)の検定の有効期間は必要だと思いますか？

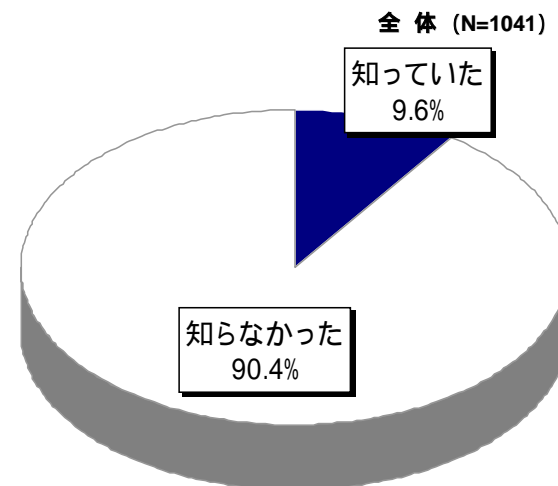
公益メーターの検定有効期間について「必要だと思う」が96%で圧倒的に多い。「必要ないと思う」はわずか4%にとどまる。



公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象

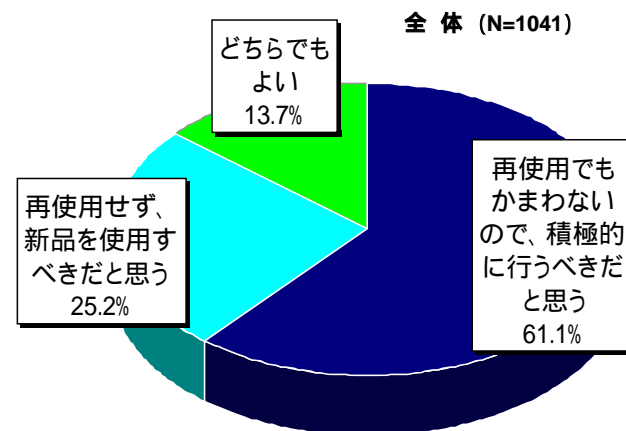
- Q 公益メーター(電気・ガス・水道メーター)については、有効期間を過ぎたものは、修理された後、再び検定を受けて使用されることになります。
あなたは、これらの公益メーターが再使用されていることを知っていましたか？

公益メーターの再使用(有効期間後の修理・検定)について「知っていた」は約1割にとどまる。



- Q あなたは、公益メーター(電気・ガス・水道メーター)修理後の再使用についてどう思いますか？

公益メーター再使用について、「再使用でもかまわないので、積極的に行うべきだと思う」が6割で最も多い。続いて、「再使用せず、新品を使用すべきだと思う」(25%)が続く。



公益メーターの検定公差、有効期間、再使用に対する印象

Q 例えば、ご家庭に取り付けられているメーターが1970年代製のように、製造後30年以上経っても、上述のとおり修理後に第三者による検定を受けたものであれば使用できるようになっています。あなたは、修理後の検定について、どう思いますか？

公益メーター修理後の検定は、【**第三者が検定を行う**】の「製造が古いメーターが取り付けられているのは、不安を感じるので第三者が検定を行うべき」が7割弱を占め、圧倒的に多い。

【**修理事業者が自ら検査・検定**】の「新品の指定製造事業者制度同様、修理事業者についても、一定のレベルの品質管理能力があれば、修理事業者が修理品を自ら検査し検定にかえることができる制度でも良いと思う」は3割にとどまる。

修理事業者が
自ら検査・検定

新品の指定製造事業者
制度同様、修理事業者
についても、一定のレベ
ルの品質管理能力があ
れば、修理事業者が修
理品を自ら検査し検定
にかえることができる制
度でも良いと思う
30.2%

その他
1.6%

製造が古いメーターが
取り付けられているの
は、不安を感じるので第
三者が検定を行うべき
68.2%

全体 (N=1041)

第三者が検定
を行う

国、自治体及び第三者機関による検定の重要性

Q 公益メーター(電気・ガス・水道メーター)については、正確にはかっているかどうかを消費者自らが確認することが困難です。これら公益メーターの正確さを担保するためには、どのようにするべきだと思いますか？あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

公益メーターの正確さを保つために【供給者以外の検定試験】の「計量が間違っていたら過去にさかのぼって確認できないので、現在のように事前に供給者以外が実施する検定試験に合格したメーターが設置されるべきだと思う」が最も多く6割に達する。次いで、【必要に応じて第三者機関が確認】の「取り付けられているメーターについて、必要に応じて供給者以外の第三者機関が確認できる方法があれば、現在のような検定を義務づけなくても、問題はないと思う」(25%)、【供給者の自己管理】の「電力会社、ガス会社等の供給者は信頼できるので、現在のように検定を義務づけなくても、供給者の自己管理に任せれば、トラブルがない限りは、コスト低減にもつながるので問題はないと思う」(12%)の順となっている。

必要に応じて
第三者機関が
確認

全体 (N=1041)

メーターが不適正であることや、供給者が不適正な計量の読みをするとは、今の時代考えられないので、規制は一切なくすべきだと思う 2.1%

その他
2.2%

取り付けられているメーターについて、必要に応じて供給者以外の第三者機関が確認できる方法があれば、現在のような検定を義務づけなくても、問題はないと思う 25.1%

全体 (N=1041)

計量が間違っていたら過去にさかのぼって確認できないので、現在のように事前に供給者以外が実施する検定試験に合格したメーターが設置されるべきだと思う 58.9%

供給者以外の
検定試験

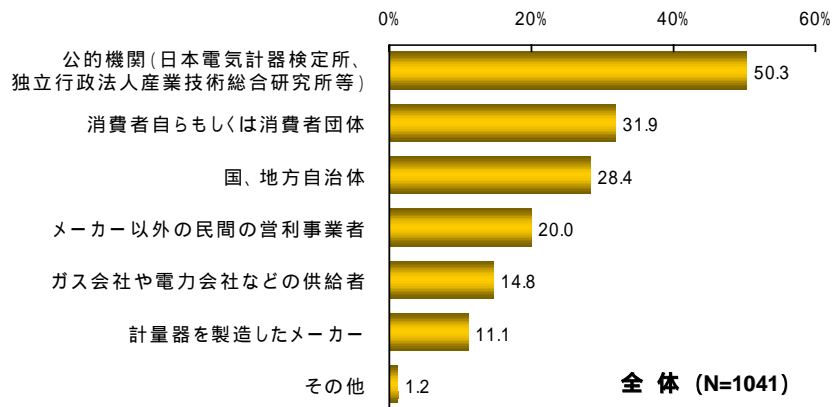
電力会社、ガス会社等の供給者は信頼できるので、現在のように検定を義務づけなくても、供給者の自己管理に任せれば、トラブルがない限りは、コスト低減にもつながるので問題はないと思う 11.7%

供給者の
自己管理

国、自治体及び第三者機関による検定の重要性

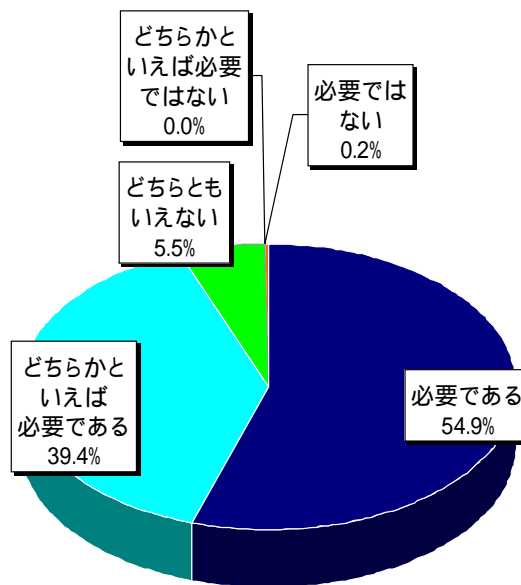
Q 公益メーター(電気・ガス・水道メーター)について、法令で定める基準に従って検定を実施するとすれば、あなたはどの機関が適切だと思いますか？
信頼・安心できると思うものをすべて選んでください。

公益メーターの検定を実施する適切な機関のトップは、「公的機関(日本電気計器検定所、独立行政法人産業技術総合研究所等)」で過半数(50%)。以下、「消費者自らもしくは消費者団体」(32%)、「国、地方自治体」(28%)、「メーカー以外の民間の営利事業者」(20%)の順で続いている。



Q 日本電気計器検定所は、電気メーターの検定を実施しているだけではなく、メーターに疑義があった場合、消費者及び設置者の要望に応じてメーターの正確性について、検査を行っております。このような第三者機関は必要だと思いますか？

メーターに疑義が生じた場合などに対応してくれるような第三者機関について、「必要である」とする者が5割強。これに「どちらかといえば必要である」を合わせると94%に上り、ほぼ全員が第三者機関の必要性を認識している。



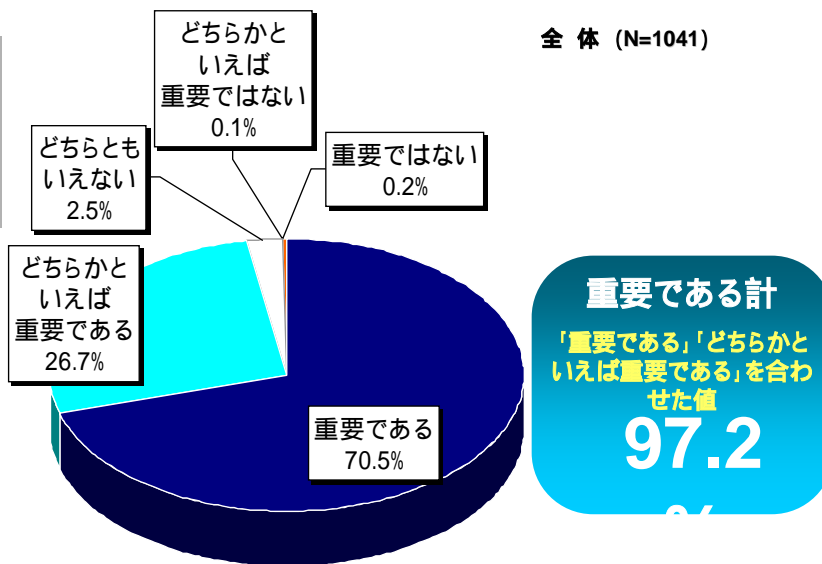
必要である計
「必要である」「どちらかといえば必要である」を合わせた値
94.3%

全体 (N=1041)

適正計量の必要性の認知度

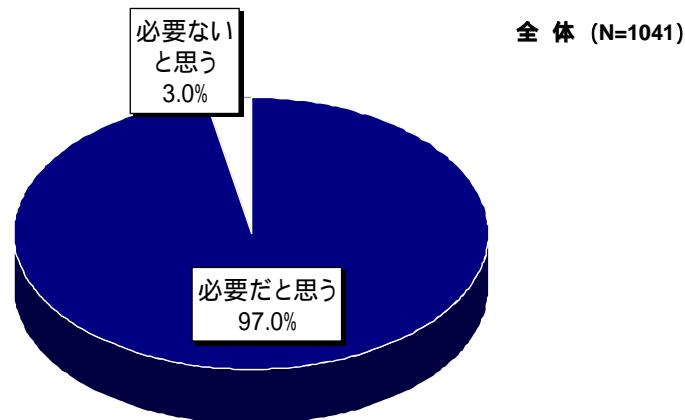
Q あなたは、社会において「正しい計量」は重要だと思いますか？

社会における「正しい計量」について、「重要である」と回答した者が7割。これに「どちらかといえば重要である」を合わせると97%に上り、ほぼ全員が計量の重要性を認識している。



Q あなたは、「検定制度」が必要だと思いますか？

検定制度の必要性に対して、「必要だと思う」(97%)がほとんどである。「必要ないと思う」はわずか3%にとどまる。



アンケート回答後に感じたこと、疑問点

Q あなたが、今回のアンケートに回答して感じたこと、疑問に思ったことがあればご自由にお書きください。

計量の認識では、「これからは計量に関心を持ち、意識するべきだと思った」、「今まで気にした事がなかった」、「勉強になった／いろいろなことが分かった」、「全然知らないことばかり／初めて知った事が多い」などが、多数あがる。

検定制度では、「正確な計量を望む」、「第三者の必要性／検定等は第三者の監視や立会いが行われるべき」など、今後の希望意見が多数。

次いで、「計測・計量の誤差、金額の誤差の大きさに驚いた」、「検定検査してくれる機関があるのを知って安心した」などが続く。

計量への疑問では、「疑問点や不安もある」、「今までは信頼しきっていた」、「疑問があってもそれを解消する術がわからない」が多数あがる。

